通行不可能となつた、現在は空しく山風にさらされ、雜草生ひ茂るのみである。

上越兩國を直接結ぶ鐵道が企畫されたのはずゐ分と舊い時代からであつたが、機運熟さず、其都度挫折の運命となつた。信越線の開通により、一時中止の形があつたが、その後必要を感ずるやうになり、大正八年上越線敷設の議が成つたのである。

以上清水隧道工事と清水峠に關してその歷史を述べたのであるが、清水隧道は清水峠の南西方約七粁の處を通過して居り、越後口は舊清水越國道筋の登川と三國街道筋の魚津川の中程の魚野川に面してゐる。高さ一九七四米の茂倉岳（前掲本誌に藤倉岳とあるは誤り）の直下を通過して居り、冠りの深さは最大四千呎にも及んで居る。本隧道が清水峠直下を通過するのではないことは讀者疾くに御承知の事と思ふ。

上越線の全通により、東京から越後魚沼地方へは非常に近くなつたし、單に物資輸送上便利になつたのみならず、上越國境の山々や多數の溫泉等、今まで東京方面の人々に知られなかつた處も、親しみが持てるやうになつた。冬のスキー、夏の登山・溫泉巡りに上越國境地方は益々賑ふことであらう。（豐田英義）

◉アジア探檢中絶か

前號雜報に報じた如くアール博士のアジア橫斷探檢はカブールに向ひつゝあるが、是を新疆省迪化に迎へて共同調査をなすべく同地に出張中であつた北平斑は斑內の葛藤より南京政府に調査を嚴禁された爲、支那團長褚民誼氏は、同地から北平に向ひ、フランス代表ポアンも支那軍人に護送され北平に向ひつゝある。未だ詳報に接せざるため北平斑の佛支全團員も一緒か否か疑問なるも、アール博士の本隊も迪化着の上は軍隊の監視付にて北平に送らるべく決定し居るを以つて、同探極隊の前途は實に暗澹たるものあり。

◉米綿の收獲豫想

アメリカ合衆國に於ける一九二〇年以來の綿實收高は左表の通りであるが本年度の收獲豫想は千五百、五十八萬四千俵と米國農務省から發表された。

一九二〇年	一三、四四〇千俵	一九二六年	千俵		
二一年	七、九五四	二七年	一二、九五六		
二二年	一〇、一四〇	二八年	一四、四七八		

二三年	一三、六二八	二九年	一四、八二五
二四年	一六、一〇四	三〇年	一三、九三二
二五年	一七、九七七	三一年（豫想）	一五、五八四

即ち一エーカー當りの收穫高は一九二九年には百五十五封度、三〇年には百四十八封度であつたのに對し、本年は百八十六封度と見積れてゐる譯で甚しい增收である。而して本年八月以降一ヶ年の消費量を千三百二十萬俵としても尙二百四十萬俵に近い供給過剩となり、更らに本年七月の持越高九百三十萬俵を加へれば合計千百萬以上とある。

◉ロシアの石油　ソヴエト・ロシアの石油は五ヶ年計畫に基づき着々產額を增加し、一昨年は九千九百五十萬七千バーレル、昨年は一億三千五百十六萬五千バーレルの實績を擧げ本年の計畫一億九千二百五十萬バーレルも正に實現すべき可能性を有し、一方世界市場に投賣りを行つてゐるので各國の脅威となつてゐるが、昨年に於けるロシア石油の仕向地別輸出數量は次の通りであつた。

英國	九七三・一一六英噸
伊太利	八二・六七九
佛蘭西	五五六・八五二
獨逸	五〇四・六二九
西班牙	三六一・三二六

然るに本年は更らに東洋市場へも手を伸ばし、上海にソエーズ・ネフチの代表部が新設され、約四千箱のガソリン油が入つたが、最近若干數量の重油及ガソリンが日本內地にも現はれ內地某石油會社ではロシア原油の輸入を交渉中であるといふ。

◉潛水艦による北極探檢　八月五日午後ベルゲンを出發したウイルキンス大尉の北極探檢潛水艦ノーチラス號はノルウエーの西海岸傳ひに北上を續くること三日十九時間、九日十一時トロムゼーに到着した。此處で燃料等の補給をなした上、翌十日更らにスピツツベルゲンに向つて出發したが、十五日午後六時スピツツベルゲンの西岸アドウエント灣頭のロングーヤーに到着したと云ふ。ロングイヤーで燃料の補給、エレヂンの調節等最後の準備をなした上で、いよ〳〵十七日同所を出發して北極洋の潛航探檢に出發する筈である。即ち北極探檢の